

学際的ワークショップ
『精神分析の知のリンクにむけて』
—第三回「精神病は、いま」—

近年、精神病を巡る諸状況は大きく変わってきています。統合失調症は軽症化し、その数も減少しています。うつ病も、かつてのメランコリーとは異なる、輪郭が不明瞭なタイプの病像が増えています。さらに最近では自閉症スペクトラムの臨床知見が、精神病の理解に影響を与えるようになってきました。このような状況の変化に応じて、精神医学はこれまで作り上げてきた知を再構築する必要性に迫られています。

一方、精神分析の側では、この現状を重大には受け止めていないように思えます。それは、フロイトがナルシスの神経症（精神病）を分析治療の「外」に置いたことが大きいでしょう。しかし、フロイトは、精神病を精神分析の治療対象から外したものの、そこから多大な理論的刺激を受けています。精神分析は、精神病が提起する諸問題に真正面から向かい合うことによって、自らの臨床知を豊かにしてきたと言えるでしょう。それはビオンの仕事を見ても明らかです。

第三回の学際的ワークショップでは、精神病を巡って、精神分析と隣接した知である精神病理学との対話を試みようと思います。今回はメインゲストとして、『「分裂病」の消滅』、『双極Ⅱ型障害という病』、『自閉症スペクトラムの精神病理』などの著作で、常に時代を象徴する病に立ち向かい、鋭利な精神病理学的思考を繰り広げてきた内海健氏をお招きします。精神分析の側からは、精神病患者に対する分析的治療経験が豊富な松木邦裕氏、本ワークショップの企画者の十川幸司が論点を提示します。指定討論者には、日本でのニューロサイコアナリシス研究を牽引している久保田泰考氏と本ワークショップのコーディネーターの一人である藤山直樹が担当します。

日 時：10月8日（月、祝）13：00～17：00

場 所：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター

参加対象：精神分析に関心をもつ方はどなたでも参加できます。

発表者：内海 健（東京藝術大学）

：松木邦裕（精神分析オフィス）

：十川幸司（十川精神分析オフィス）

司 会：藤山直樹（個人開業、上智大学）

討 論：久保田泰考（滋賀大学保健管理センター）

：藤山直樹

参加費：5000円（学生は3000円）

定 員：100名

申し込み方法：2018年9月28日（金）までに小寺記念精神分析研究財団事務局に e-mail でお申し込み下さい（kodera.kt@nifty.com）。表題は「学際的ワークショップ申し込み」とし、メール本文に、氏名、住所、ご所属とご身分（学生、教員、会社員など）お書き下さい。返信メールにて、お振込みのご案内をさせていただきます。

主催 小寺記念精神分析研究財団